

特定外来生物

アルゼンチンアリ

昆虫綱 ハチ目 アリ科 *Linepithema humile*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

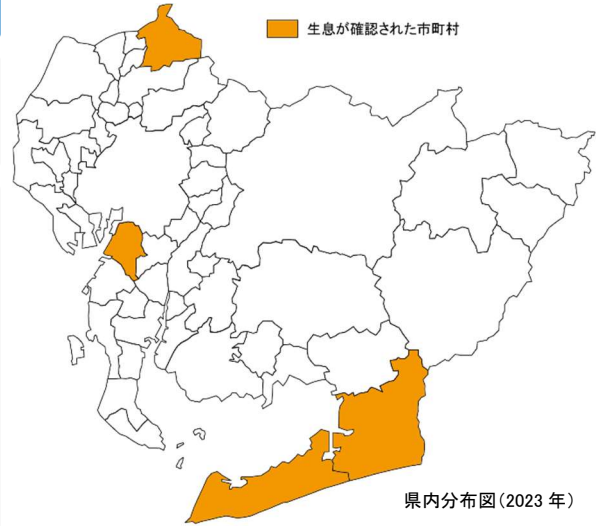
基礎情報

原産地

・南米のパラナ川流域

現在の分布

- ・世界では、ヨーロッパ、北米、南アフリカ、オーストラリア、フィリピン、マレーシア等に侵入している。
- ・国内では、東京(2021 根絶確認)、神奈川、静岡(2019 根絶確認)、愛知、岐阜、三重、奈良、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、山口、徳島の各都府県で確認されている。
- ・本県では、豊橋市、東海市、田原市に定着。犬山市でも侵入が確認されている。



侵入の経緯

- ・1993年7月に広島県廿日市市で生息が確認されたのち、兵庫(1999年)、山口(2001年)、愛知(2005年)、神奈川、岐阜、大阪(以上2007年)と次々に侵入が確認された。
- ・建築資材など船舶貨物に紛れ込んで侵入した可能性が指摘されている。

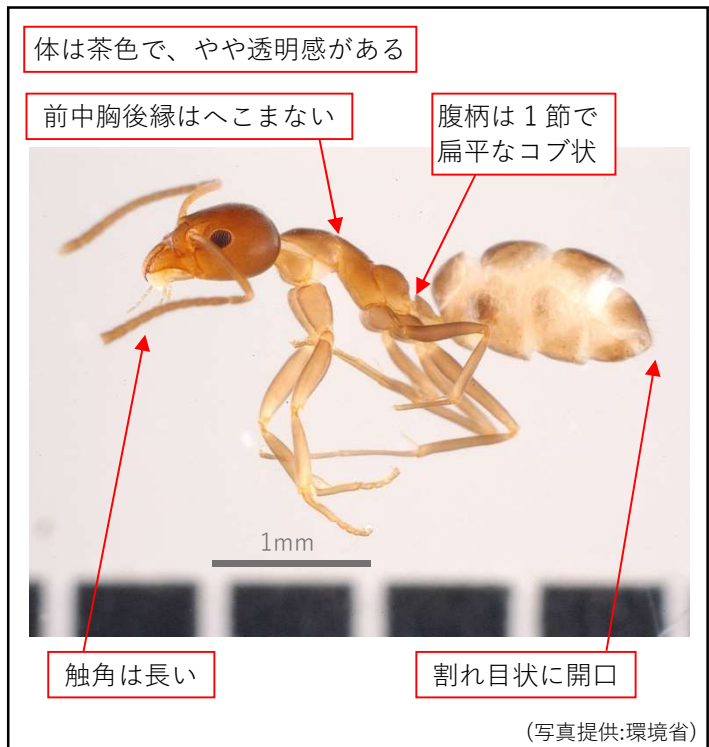
形態

【働きアリ】

- ・体長 2.5~3.0mm で、どれもほぼ同じ大きさ。体形はやや細長い。
- ・体は茶色(赤褐色~黒褐色)で、見え方に差異がある。光沢はあまりない。
- ・前中胸後縁はへこまない。
- ・前伸腹節(胸に見える部分の一番後ろの体節)にトゲや突起がない。
- ・腹柄は1節で扁平。
- ・糖蜜系の餌を摂食した際には腹部の節の間が広がり、縞模様に見える。腹部末端は尖らない。

【女王アリ】

- ・体長 4.5~5.0mm。体色は働きアリと同様。胸部の筋肉が盛り上がり、腹部もやや大きい。羽化した時には翅があるが、間もなく自ら翅を落とす。



アルゼンチンアリ (働きアリ)

生息環境

- ・市街地や公園などの人の手が入った開けた空間、河川や用水路付近など湿度が高い環境を好む。
- ・石や植木鉢などの下に浅い巣を作るが、環境の悪化や人為的な攪乱があるとすぐ移動する。

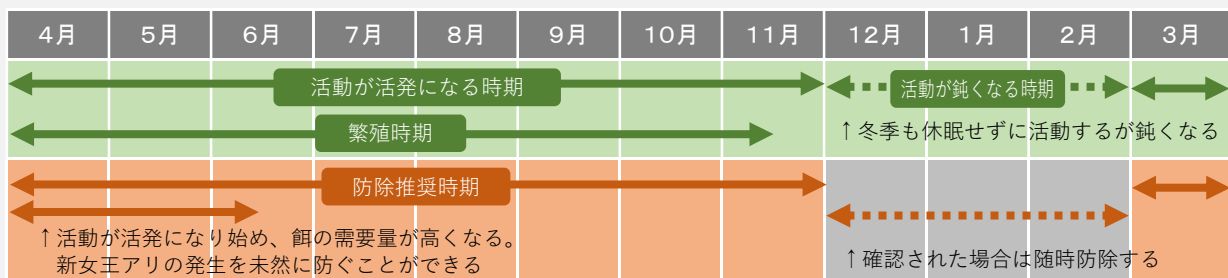
生態・ライフサイクル

- ・食性は雑食性で、アブラムシやカイガラムシが分泌する甘露や、人の飲み残しのジュースなどの糖を含むものを特に好む。生きた昆虫を襲うこともある。
- ・働きアリは盛んに行列を作って活動し、在来種の2倍ほどの速さで移動する。働きアリの活動温度帯は5～35℃で、時間帯や季節に応じて適温の場所を求めて移動する。冬は活動が鈍るものの、休眠はしないため、暖かい日には野外で活動する。
- ・一つの巣に複数の女王がいる(多女王制)。加えて、分巢で巣を増やし、多数の巣が行列を介して繋がった巨大なコロニー(スーパーコロニー)を形成するため、他のアリに比べ繁殖力が並外れて高い。



アルゼンチンアリ (働きアリ)

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

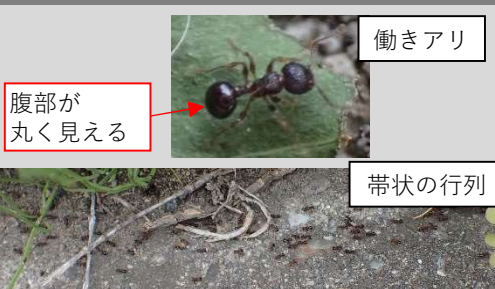
【アルゼンチンアリの簡易同定】

- ・発見したアリの行動や体をルーペ等で観察し、以下の①～④のすべてに該当する場合は、アルゼンチンアリの可能性が高い。

- ① 体は茶色(赤褐色～黒褐色)で、やや透明感がある。頭・胸・腹で色の濃淡がない
- ② 体長2.5～3.0mm程度(働きアリに限る)
- ③ 体は細長くスマート
- ④ 高速でせわしく歩き、定着すると帯状のよく目立つ行列を作る(行列は線状にならない)

- ・同様によく目立つ長大な行列を作る種としてはアミアリ、ケアリ類、クサアリ類などがある。特にアミアリは比較的開けた環境でも見られ、在来アリとしては繁殖力が強く、頻繁に引っ越しをするため、目にする機会が多い。在来アリの行列は写真に写るが、アルゼンチンアリは大変速く歩行するため、行列を撮影しても静止画では残像しか映らない(活動が鈍る冬季を除く)ことで区別できる。

アミアリ (在来種)



- ① 体長2.5mm、体はやや丸みを帯びる。
- ② 頭部～胸部は赤褐色～褐色で、網目状のしわがある。腹部は暗褐色で、強い光沢がある。
- ③ 背中(前伸腹節)に1対の長いトゲがある。
- ④ 腹柄は2節
- ⑤ 生時は腹部末端を下に向けるため、上から見ると腹部が先細りせず丸く見える。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・競争力・攻撃性が非常に高く、侵入した各地域で在来のアリを次々に駆逐したり、小型節足動物を捕食する。在来アリ類を駆逐することで、それらと特異的な共生関係をもつ小動物(好蟻性生物)も生息不可能とするなど、生物相に大きな悪影響を与える。また、在来アリ類に花粉の運搬や種子の散布を依存していた野生植物が繁殖できなくなるおそれがある。
- ・農作物に食害を与える。また、アブラムシやカイガラムシなどの農業害虫を本種が保護する(これらが出す甘露をエサとするため)事により、これらの農業害虫が増大して作物に被害をもたらす。
- ・ヒアリのよう針で人を刺すことはないが、行列をつくって頻繁に家屋に侵入する、食品に群がる、電気製品に侵入して不具合を生じさせる、安眠を妨げるなど、生活に支障をきたすことがある。なお、本県では、家屋への侵入被害は報告されているが咬傷事例はない(2023年時点)。
- ・いったん定着してしまうと根絶は困難なため、早期発見、早期防除が重要である。

生息・被害の確認方法

- ・粘着トラップを使用して生息調査を行う。誘引剤(エサ等)を使うものと使わないものがあるが、広範囲で調査する場合は、まず誘引剤なしのトラップで全体を調査し、本種の付着があった地点付近で誘引剤ありのトラップを高密度に設置して生息範囲を特定するとよい。
- ・粘着トラップ調査の後、生息が確認された地点の周辺で目視により行列や巣を探す。
- ・本種が定着した地点では在来アリが駆逐されるため、在来アリが多くいる地点では本種が侵入している可能性が小さいと判断できる。



ベイト剤に集まるアルゼンチンアリ

防除方法

- ・既に侵入・定着している地域では、分布の拡大や被害の防止に努める。
- ・新たに侵入が確認された地域では、定着・拡大と被害発生を未然に防止するとともに、専門家の助言を得ながら、早急に根絶を目指した防除に取り組む。

推奨時期

- ・気温が上がり活動が活発になる3~11月の防除が推奨される(冬季も休眠せずに活動するが鈍くなる)。
- ・活動が活発になり始め、餌の需要量が高くなる4~6月上旬に実施すると効率的。新女王アリ候補の幼虫が蛹へと成長する時期でもあり、新女王アリの発生を未然に防ぐことができる。
- ・冬季は地表付近に女王が集まるので、それを駆除できると効率的に生産力を削ぐことができる。

具体的な防除方法

- ・防除方法として、化学的防除(殺虫剤等)、物理的防除(巣の除去等)、生物的防除(天敵利用等)、餌の除去、移動の阻害・抑制などがある。効果的な防除のためには、これらを組み合わせて使用する。
- ・目視できる場所にいるアルゼンチンアリは、地域に生息している集団のごく一部に過ぎないため、これらの個体を殺虫するだけでなく、巣にいる多くの個体を効率的に駆除する必要がある。
- ・現在アルゼンチンアリ防除のために行われている方法としては、餌として巣に持ち込まれる殺虫剤(ベイト剤)の設置と、その他の方法(行列への液剤散布など)を組み合わせることが一般的である。

【主な防除方法】

区分	方法	概要
化学的防除	ベイト剤	・遅効性の毒エサを用いた殺虫剤。粒剤、液体型、ペースト型など様々な剤型がある。 ・アリは餌を巣に持ち帰って幼虫や成虫に分け与えるため、連鎖的に殺虫効果が得られる。巣の位置が不明でも駆除できる。 ・アリが好む餌を用いれば、他の生物に影響を与える可能性が低い。ケース内に薬剤を入れた場合、アリが食べた分量の薬剤しか環境中に放出されないため、比較的環境負荷が小さい。
	液体型殺虫剤（液剤）	・基本的にはアリが薬剤に触れることで効果が発揮される。 ・遅効性のものを使用すれば、アリ同士が体を舂めあう習性を利用して他のアリに次々と殺虫成分を伝えることができ、巣内の個体を効率的に防除できる。 ・侵入の初期段階や防除の最終段階で生息域がごく狭い場合や高密度に営巣しているような場合には、巣の場所に浸透させるように散布することも有効。
	スプレー式殺虫剤	・家屋内に侵入してきたアリなど、使用の簡便性、目の前のアリへの即効性は高い。狭い場所で噴霧する場合、十分な換気など使用上の注意事項に留意する。
	粉末型殺虫剤	・家屋などへの侵入を防ぐために、家屋の周囲に粉末型の殺虫剤を散布し、アリの行列を一時的に崩壊させる。接触性の連鎖的効果を持つものもある。
	フェロモン剤（非殺虫性）	・働きアリは餌を巣に運びこむための信号として「道しるべフェロモン」を分泌する。このフェロモンと同じ物質をアリの活動域に高濃度で設置すると、アリ同士で情報交換を行うための信号が攪乱されて正常に餌を巣に運ぶことができなくなり、コロニーが衰退していく。
	忌避剤（非殺虫性）	・ピレスロイド系の殺虫成分を含ませたプラスチック資材を建造物や機械の周りに張り巡らせることで、建造物や機械内部への侵入を抑えることができる。
物理的防除	営巣・採餌場所の除去、建造物への侵入防止	・土嚢、木材、ゴムマット、レンガ、ブロックなどの資材や植木鉢、プランターをむやみに直接地面に置かない、もしくは、それらの管理を集約的に行い、散乱させないようにする。 ・枯葉を適切に処理する。アリが付着している可能性がある場合は、除草した草をその場に放置せずに、焼却や、薬剤処理をしてから廃棄する。 ・コンクリート構造物の隙間や亀裂をシーリング材などで埋める。
	熱による防除	・アリに熱湯をかける。バーナーで焼き払う。
エサの除去	アブラムシ類・カイガラムシ類の防除	・アリのエサとなる甘露を分泌するアブラムシ・カイガラムシ類を生息場所となっている雑草の刈り取り、樹木の剪定、殺虫剤（農薬）の散布により防除する。
	その他の餌の除去	・食べ物や飲み物の容器や食べ残しを放置しないようにする。

「アルゼンチンアリ防除の手引き（改訂版）」（環境省 自然環境局, 2013）を元に作成

作業上の注意点等

- ・殺虫剤を使用する際は、人やペット、人が触る場所にかからないよう、また吸い込むことがないように配慮する。河川やため池に近い場合は、水系に流入しないよう注意が必要である。
- ・効率的に防除するためには、生息域全体で地域ぐるみの一斉防除を行うことが望ましい。
- ・ベイト剤を使用する際は、乳幼児やペットなどの誤食予防対策が必要。地域住民に注意喚起の冊子を配布するなど、周知を徹底する。
- ・1匹見つければ周囲にも潜んでいたり、巣がある可能性もあるため、周りをよく確認したり、駆除後も定期的に確認をする。
- ・むやみにベイト剤をおくと、在来のアリやその他の生物を殺してしまい、かえってアルゼンチンアリが定着しやすい環境をつくってしまうおそれがある。
- ・現場を離れる前に全身をよく払い、アリを衣服につけて運んでしまうことのないよう注意する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意（行う場合は手続等が必要）である。

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 昆虫類 > アルゼンチンアリ（国立研究開発法人 国立環境研究所）
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60090.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > アルゼンチンアリ（環境省 自然環境局）
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-kon-04.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集（環境省 自然環境局）<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 昆虫類（環境省 自然環境局）https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/6hp_konchurui2.pdf
- ・アルゼンチンアリ防除の手引き（改訂版）（環境省 自然環境局,2013）
- ・特定外来生物アルゼンチンアリ 中国・四国版（環境省 中国四国地方環境事務所,2013）
- ・アルゼンチンアリの見分け方（環境省 自然環境局,2010）
- ・外来アリ同定・解説マニュアル（寺山守,2021）
- ・長野県版外来種対策ハンドブック～みんなで守る信州の自然～（長野県,2020）
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021（愛知県,2021） p.91 アルゼンチンアリ（坂本洋典）